

新潟職能短大通信

新不思議な建物(その2)

今回は、前回に引き続き不思議な建物(その2)をご紹介します。

それは、会津若松市の飯盛山に建つ「さざえ堂」で、昨年度の総合制作実習の課題です。



2重らせん構造の模式図

迷路の会津さざえ堂(平成二十年度総合制作実習作品)

不思議な通路

会津若松市の飯盛山に建つ「さざえ堂」は、一七九六年、江戸時代後期に建立されました。平面が一辺約四mの正六角形で、高さが約十六mのお堂です。正面の入口から入り、右回りのスロープを上っていくと、堂の最上部には太鼓橋がかげられています。その太鼓橋を渡ると、今度は左回りのスロープで下るようになっていきます。それとするとアラ不思議、先ほど

入った正面の真裏にある出口に出るのです。実は、上りのスロープと下りのスロープはまったく別の通路となっています。このような構造を「二重らせん構造」といい、各地に「さざえ堂」と名の付いたお堂が数箇所有りますが、このようにスロープで二重らせん構造となっている例は他には無いようです。一本のロープを二つに折り、折った部分を数回ねじるとこのようになります。

何のためのお堂?

なぜこのような堂が作られたかという点、当時は近畿地方を中心とした西国三十三札所の観音像が収められていて、このお堂を一回りすれば西国三十三箇所を巡礼したことになりました。またお堂の中では、上りと下りの参拝者たちがすれ違うことなく、全ての観音像をお参りすることができたのです。上りで一周半、下りで一周半の三周を廻

ると、入口から出口まで全てをまわることになりませんので、正式名称を「円通三師堂(えんつうざんそうどう)」といいます。このお堂があった正宗寺は、明治初年の明治政府による神仏分離令により廃寺となり、観音像等は他の寺院に移転されて現在は有りません。

「さざえ堂」の源流はレオナルドダビンチ?

さざえ堂は当時、この地にあったお寺、正宗寺の住職、郁堂(いくどう)禪師によって考案されたということ。よくこのようなトリッキーな建物を考えついたと感心させられます。

日大教授であった故小林文次氏によりすると、二重らせん状のスロープはレオナルドダビンチのスケッチにも存在するそうです。享五年(一七二一年)の洋書解禁により、日本でも研究者の間ではかなり知られていたようです。小林教授は、これが「さざえ堂」の源流ではないかと推測されています。

模型の製作

四人の学生が、この二

十分の一模型の製作に取り組み、内部の構造がわかるように工夫しながら、できるだけ本物と同じように部材を作って組み立てました。昨年12月には、新発田南高校の生徒さんが当校で研修を受け、学生たちと一緒に細かい部材を丁寧に作ってくれました。今後、イベント等で展示する予定です。その節には是非ご覧ください。



会津さざえ堂



完成模型

参考資料

- ・ホームページ：会津さざえ堂公式サイト
- ・朝日新聞夕刊(昭和四十七年十一月二十日付)：小林文次氏「会津さざえ堂の源流」
- ・「田通」(画堂「さざえ堂」実測図) 日本大学理工学部建築史研究室 小林文次氏一九八五年実測

新潟職能能力開発短期
大学校 住居環境科

金子昭夫